

# 長岡市長記者会見要旨

日 時：令和7年3月12日（水）午前9時30分から

会 場：アオーレ長岡 東棟4階 大会議室

## 【令和7年4月1日付け人事異動について】

### （市長）

令和7年4月1日付の人事異動について説明いたします。

人口減少、少子化、物価高騰など、社会経済情勢が非常に悪化する中で、厳しい行政運営を強いられていますが、そういった中でも令和7年度の業務体制をしっかりと作っていきえるよう、適材適所の人事異動を行います。

議会の本会議で、本人の希望を可能な限り反映したらどうかといった話がありました。人事異動は本人にとって、不満や、歓迎すべき場合もありますが、長岡市の場合は自己申告書により、本人の希望を反映するようにしています。そして、3年から5年程度のローテーションで、さまざまな職場を経験してもらっています。そういった経験、働きを評価し、幹部職員に登用していくという形をとっております。

異動規模は、前年比6人増の782人と平年並みになっています。

項番1「持続可能な行財政運営の実現」について、令和7年度は次の令和8年度から始まる持続可能な行財政運営プランの改定の年に当たるため、この改訂作業の調整役として野口政策監を行財政改革担当の理事に登用いたします。

項番2「医療・福祉の充実」については、引きこもり相談支援体制の整備を進めるため、福祉課長に福祉分野の経験豊富な勝沼財政課長補佐に登用します。

また、地域医療体制の確保を進めるため、調整力の高い河上産業支援課長を保健医療課長に登用いたします。

項番3「地域経済の下支えと産業界の人手不足対策」について、物価高騰などの環境変化に対応した地域経済の下支えを着実にを行うため、産業支援課長にこの分野に経験豊富な早川政策企画課長補佐に登用いたします。

人材・働き方政策課長には実務に長けた星野人事課長補佐に登用いたします。

項番4「積極的な女性職員の登用」について、さまざまな分野の政策立案も含めて、多様な政策展開、まちづくりを推進するため、女性職員を積極的に登用したいという内容です。

課長補佐級以上の人事異動の詳細については、資料の通りです。

### （記者）

女性職員の登用について、登用率の数値目標はあるのでしょうか。

(市長)

令和7年度中に17.5%の目標を立てていました。年度途中の人事異動もあるため、今後変化することもあります。現時点では目標に少し届いていない状況です。

(記者)

渡邊政策監を副市長と判断した狙いを教えてください。

(市長)

副市長人事は議会での議決が前提です。地域政策監が副市長の人事案を、今後出したいと考えています。

狙いですが、渡邊地域政策監は、地域をいままでまとめてきており、支所地域の皆さんから人望の厚い人物だからです。

そして、今年是最初の合併から20年になります。今後の地域政策を改めて考えていくため、最高の人物だと考えております。

さまざまな経験をしている職員ですので、立派に職責を果たしてくれると考えております。

(記者)

総合計画のまとめ役は五十嵐さんになるのですか。理事級も関わるのですか。

(市長)

五十嵐地方創生推進部長が総合計画のまとめ役になります。

## 【その他の質問】

(記者)

原発関連についてです。先日、柏崎刈羽原発の特定重大事故等対処施設の工事延期発表がありました。受け止めをお願いします。

(市長)

必要な工事であるならば、早急に完成してもらいたいと思っております。

ただ、工事目的や、それができないことの意味合いなど、そういった説明は国あるいは東電から受けていない状況です。

第一印象として、世界情勢や戦争などのテロといったものが収まる気配が見えない状況に加え、アジア北東地域の緊張感がこれから出てくるという見方がある中で、テロ対策の必要な工事であれば、早く行ってほしいと感じております。

(記者)

人事関係について、谷畑さんを理事に引き上げる狙いを教えてください。

(市長)

技術的な指導や全体の調整は、土木部だけではなく都市整備部や環境部、教育部など、さまざまな工事の工法の問題、人員の予算計上の仕方、技術的な観点からアドバイスをする職が必要です。

谷畑土木部長が一番ふさわしいということで、理事職として市役所全体の工事関係のアドバイザーとして、役割を果たしてほしいといった意図になります。

(記者)

これからの公共施設の建設や維持管理について、問題が出てくる可能性があるという意味でしょうか。

(市長)

その通りです。

例えば、今下水道の問題がありますが、水道はどうかといった問題があります。

今後、新たな問題が出てくると考えていますので、谷畑理事には、さまざまな情報収集と、必要なアドバイスを全庁的にしていただきたいと思っています。

(記者)

3.11を迎えての所感と、今後のまち作りにどういう思いを抱くか教えてください。

(市長)

3.11や、中越地震といった大きな災害は、避けられない時代になったという認識を常に持っていなければならないと思っています。

長岡においては、信濃川の水害問題、降雪問題、地震や原発の災害事故も起きることを前提に、行政の防災対策を進めていくべきと思っています。

必ず起きる前提で、3.11の教訓を蘇らせていく必要があると思っています。

(記者)

市長にとって、3.11の最大の教訓って何ですか。

(市長)

想像しなかったことが、現実起きるということです。

今後、想定すべき災害や、紛争、戦争といったものを含め、何が起きてもおかしくないという認識を、特にこの行政に関わる者は、しっかり仕事の基本に置かなければいけないと思います。例えば、新型コロナウイルスのパンデミックは、このようなパンデミックが起こる想定はありましたが、すごい驚きでした。

想像力を持ちながら、起きた場合の対応や、起きないようにするにはといったことは、市長として、常にしっかり意識していかなければと思っています。

(記者)

合併20年に向けて、何か考えや、市長なりの思いがあれば教えてください。

(市長)

共通の課題としては、急速に進む人口減少、高齢化、過疎化です。

地域のインフラや生活環境をどのように守っていくかということは、大きな課題だと思

っています。

例えば、集落が消えていくまで待つのではなく、積極的に、集落の統合や、学校の統廃合を行いたいと思います。

中心を、より強くはっきり見えるようにしたいと思っています。具体的には、支所やコミセンの周りなど、地域力を集約し、分散から集約という方向に舵を切っていくべきだと思っております。

地域の活力をいかに集約し、新しい動きを出していくか、それは観光交流人口の増加や、地域の皆さんの楽しみである祭りやイベントなど、今のタイミングで集約し、しっかりと守って発展させていくことを意識的に行わなければ、自然消滅となる可能性があるため、しっかり政策の中で取り組んでいきたいと思っております。

**(記者)**

3月9日に、ハワイで長岡花火が打ち上げられました。所感と、市長にとってこのフェスティバルはどういった存在なのか教えてください。

**(市長)**

今年は戦争終わって80年の節目の年になります。そして、アメリカ大統領がトランプさんになって、大きな節目の年となっています。

世界に平和が来るかどうかは、現時点で難しい問題であり、戦争がこの地球上から簡単になくなることはないと考えてます。

今年、ホノルルフェスティバルで長岡花火が上がったことは、これからも平和を願う長岡との繋がりをホノルル市が姉妹都市として持っていていただけているということ、このアピールを長岡市としてできたことは大変嬉しく思います。

今後とも、真珠湾攻撃をした山本五十六、長岡空襲80年を迎えた長岡市としても、アメリカ、ハワイホノルル市との友好関係の中で、平和を訴えていきたいと考えております。

**(記者)**

今後もこの花火大会を続けていきたいというお考えでしょうか。

**(市長)**

はい、そのように考えております。

**(長岡花火財団 高見理事長)**

こちらの気持ちは市長が申し上げた通りですが、先方との協議は当然必要になってまいります。

**(市長)**

長岡としては、続くといいなと思っています。

**(記者)**

柏崎刈羽原発のテロ対策施設についてです。工事遅れの発表時期について、市長の受け止めを教えてください。

**(市長)**

発表が唐突に行われたことは、どうなっているのかという思いはあります。

今までの工事状況から見て、おそらく半年や一年前には、ある程度の工事の遅れは把握していたはずだと思っています。さまざまな議論をしている最中に、このような発表をすることは、普通の会社や組織の振る舞いではないと思います。

ただ、これがテロ対策として必須の工事であるならば、早急に完成してもらいたいと思っています。東京電力の力をもってすれば、問題ないはずにもかかわらず、どうして何年先みたいなお話をするのでしょうか。早急に完成したらいいのではと思いました。

この施設がテロを防ぐ面でどの程度の重みを持っているのか、効果を発揮するのかなど、今まで国あるいは東電から十分に説明がありません。

確定的なことは申し上げられませんが、必要な工事だから行うと思うので、それであれば早急に完成させてもらいたいと思っています。

ここに関しては、東電、国は早く県民に対して説明するべきだと考えています。